



健康長寿ポイント

【脳卒中ワポイント⑦】 こう治療する ●くも膜下出血の場合

動脈瘤の破裂による出血がいったん止まっても、放っておくと再び破裂して大出血を起こすことがあります。それを防ぐため、手術や血管内治療が行われます。動脈瘤の部位や大きさ、患者さんの状態などによって、適した方法が選ばれます。

クリッピング手術

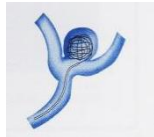
頭蓋骨を切開し、動脈瘤の根元の部分を専用のクリップで挟みます。

この手術により、動脈瘤の中に血液が流れ込まなくなり、やがて動脈瘤はなくなります。



動脈持去栓輔(コイル)

開頭せず、血管の内側から治療する方法です。カテーテルという細い管を脚の付け根の血管などから動脈瘤まで送り込み、金属製のコイルを詰めこみます。こうして動脈瘤の中に人工的に血栓を作って、破れないようにします。



8月1日 横手市増田町18名(児童12名)・浅水小学校児童9名・協力者2名・海洋指導員他4名・センター職員3名の合計36名により秋田県横手市増田町との自然体験交流事業(夏)を開催いたしました。午前中は、浅水ふれあいセンターにおいて浅水小児童を対象に“村田製作所”さんのご協力により《環境学習&電子工作》の出前授業を行っていただきました。初めは環境の学習で、3R(リデュース・リユース・リサイクル)についてクイズ方式で10問に挑戦しながら学びました。休憩をはさみ後半は、半田付け等が不要でホチキスで作れる“電子オルゴール”の製作を行いました。環境学習は楽しみながら学ぶことができ、電子工作が完成したあとは、お互いにオルゴールの音を聴かせあったり、何の曲か確かめたりしました。午後は北上川に移動し、増田小児童の皆さんとドラゴンボート(通称バナナボート)を体験することができました。去年は、体験の直前の雷雨で中止になったので、より楽しむことができたようです。その後は、ふれあいセンターに戻り、流しそうめん・バーベキューの他、ドッジボールや花火を通して交流を深めることができました。子ども達は、住所を確認し合い、友達づくりをしておりました。

自然体験交流事業を開催



男の料理教室を開催

8月2日参加者4名で講師の田島久美子先生による男の料理教室を開催しました。

本日メニューは①ごはん ②もやしと豆苗の豚しゃぶ丼 ③キャベツと玉ねぎのフレック炒め ④きゅうりとオクラの梅肉和え ⑤スープで行いました。

夏場のどんぶりということで豚しゃぶ丼。豆苗(豆から発芽させた幼い状態のエンドウ、若い葉と茎を食べる)のシャキシャキした食感と青しその香り、そして真中に温泉卵をのせていただきました。かつおフレックを使った炒め物は野菜と混ぜることでおいしさも増し、きゅうりとオクラの梅肉和えも夏こそ食べたくなるちょっとしたもう1品になりました。



集落「集う会」が続々誕生

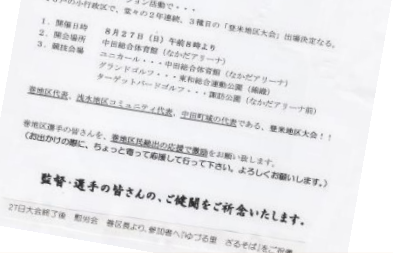
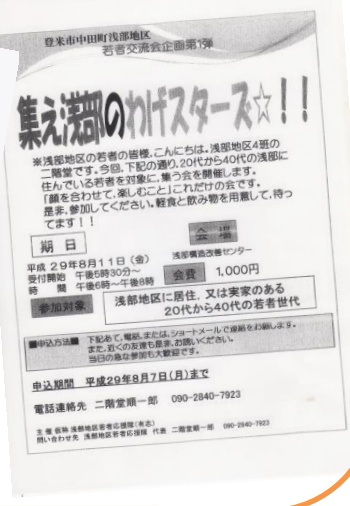
地域を元気にしよう地域づくり活動を行っておりますが、各行政区で集う会が活発にスタートしております、こうした活動を通して浅水地域を元気にして行きましょう。

集落	会	主な活動
小島	絆の会	踊りグラウンドゴルフ等で活発な活動をしている
新小路	麻雀会	農協 市役所 教員0Bでスタート
浅部	集え浅部のわけスターズ	顔を合わせて、楽しむこと
巻	ユニカル会	優勝に向けて、区長 副区長も支援し、集会所で練習会

巻区が3種目登米市大会8月27日開催 出場

平成29年度ふるさとスポーツ中田町域大会結果

- 7月12日 町ユニカル大会 準優勝
- 7月25日 町グラウンドゴルフ大会 抽選〇
- 7月26日 町ターゲットバードゴルフ大会 優勝



健康長寿講座の補足

行動すると、いいことが起る

老健なかだ施設長の講話で紹介された後藤はつさんのデータを新小路の宮崎さんが届けてくれたので紹介します。きつと役立つと思つて…。

好きなことを 後藤はつ (画家)

楽しむ なんと御年、百十三歳！好きなことをやっていると、自然と(いい顔)になります。何かを始めるのに達すぎることはない。出来るか出来ないではなく、やるかやらないか。

「明治三十六年生まれ、現在、百十三歳。これが、私のモットーです。いつもニコニコのいい顔」でいられるのは好きなことを楽しんでいるから。これまで、七十三歳で絵を始めて、百歳を超えて二度アメリカを旅したり、百八歳で東京スカイツリーにのぼったりと、人生を存分に楽しんできました。昨年誤嚥肺炎で入院したこともあり、体力が落ち、声が出にくくなつてしまいましたが、今はリハビリを兼ねて、毎日、百人一首、を五十首ほど語っています。上の句を読み上げたらうと、自然と下の句が口からでてきてね。まだまだ脳は元気なようです。

七十三歳で絵を始めたのは、本当に偶然です。二十歳で結婚し、炭鉱技師だった夫を二十八歳のとき亡くして、それから、ずっと子育て、海外赴任していた娘家族に同行しての孫の世話と夢中に生きてきました。でも、孫たちが成長すると、次第にやるのがなくなり、時間を持て余すようになりました。その時息子に言われました。何かしないとボケちゃうよ「ドッキッ」としましたね。早速、何か始めようと、新聞で見かけた点字講習会に参加することに。でもこれがプロ養成の講座ですがについていけず、あえなく途中で断念。次に見つけたのが、カルチャースクールのフランス刺繍講座でした。もともと針仕事は得意です。楽しみにして行くと、なんと今度は定員オーバー。仕方がないので、もう諦めて帰ろう、そう思ったときのことでした。絵画教室なら空いていますよ「こうして偶然が重なり、考えもしなかった絵始めることに。絵筆を握ったこともなく、絵が好きだったわけでもない。まったく経験がない方が面白いかもしれない、という直感だけで「始めました。でも、すぐに熱中したわけではありません。なかなか上手にならないし、最初はただ教室に通っていただけという感じでした。それでも、息子が絵の具セットを贈ってくれたこともあって、コツコツ続けていました。大きな転機は、絵を書き始めてから八年目「のことでした。私のがんばりを見てくれていた絵画教室の先生が、展覧会に出してみませんか」とおっしゃってくださいました。さて何を描こう。浮かんできたのが、故郷・新潟県赤倉温泉の情景でした。子供の頃を思い出すと心がワクワクするし、絵も自分らしいものになるのではないかと。上手く描こうとは思わず、好きなように描こうと描いた絵は、なんと現代童画展の新人賞を。ますますやる気が出て、夢中になり、息子連からも、最近楽しそう。笑顔が増えたえたとよと言われるようになりました。生きがいがあると、自然に笑顔が増えて、いい顔になるのですね。以後、九十九歳で筆を置くまで、故郷の情景をテーマに、畳一枚ほどもある百号サイズの絵を二十枚描きました。

人生、いつでも今から好きなことを楽しむ時の顔は、いい顔です。自分が笑顔でいれば、相手も必ず笑顔が返してくれます。さあ、好きなことをやりましょう。大生、いつでも今から」です。

交通死亡事故ゼロ達成で褒状

迫町の森地区が六月三日に四〇〇〇日、中田町の浅水地区が六月十一日に一〇〇〇日とそれぞれ交通死亡事故ゼロを達成し、表彰式が六月二十一日に市役所迫庁舎であった。

登米市交通安全対策協議会会長の熊谷盛廣登米市長は「交通事故ほど悲惨なものはない。記録をしっかりと伸ばしていつてほしい」と挨拶。

森地区コミュニティ推

進協議会の鈴木香会長は「機会あることに警察署などから講話などをしてもらって啓蒙している。更に記録を伸ばしていきたい」と、浅水コミュニティ運営協議会の羽生進会長は「これからも関係者のご指導をお願いする」とそれぞれ語った。

また中田地区が交通死亡事故ゼロ一〇〇〇日となったことから、県警本部交通部長から感謝状が贈呈され、中田総合支所

の佐々木支所長が「合併後初めての一〇〇〇日達成。関係者に改めて感謝する。今後も地域一丸となつて交通安全の推進、啓蒙に努めていく」と語り、感謝状を受け取った。

